

厳しい残暑が続く今日この頃、いかがお過ごしでございますか。毎度格別のお引き立てを賜り誠にありがとうございます。

季節のご挨拶かたがたダイレクトメール秋号をお届け申し上げます。

私播磨屋助次郎は、この九月で満七十歳の「古希」を迎えます。

若いころ「海援隊」の『思えば遠くへ来たもんだ』という楽曲が流行ったことがありましたが、私の現在の心境は、全くそのタイトル通りでございます。

私は多分「天命」とやらを背負った、特別な人間なのでございましょう。

片田舎の小商人でしかなかった名もなき一庶民が、途方もない経済パワーを持つ「播磨屋本店」を創業し、その事業目的を「環境問題の抜本解決」と定め、自然ながらの導きのままに、こんな高みにまで上り詰めて来たのでございます。

天命が天命だけに、未だゴールは見通せてはいませんが、自分では「ゴールはもうそう遠くない」「もうあと一踏ん張り」と思っております。

「不自然」永久には続かず、何事も「自然」が一番——我々日本人は古来、こう考えながら何千年、いや何万年もの悠久の歴史を紡ぎ続けて来たのでございます。百万パーセントの絶対的確信を持って、はつきりと断言させて頂きます。

私たち人類は、進むべき方向を完全に間違えてしまっており、どれほど困難でも残念でも今すぐUターンして、母なる「自然」へ帰るしかないのでございます。

詳しくは、同封小冊子の『救世救国巻頭言』をご精読ください。

ともあれ、またいつものように秋のご用をおうかがい申し上げます。

おすすめは「徳仁皇太子尊像の写真色紙プレゼントセール」でございます。

平成三十年 初秋 コスモス咲き始めるころ

あるじ 播磨屋助次郎 敬白